

イカナゴ (*Ammodytes japonicus*)

生態

- ① 寿命：5歳以上。
- ② 成熟：1部は1歳で、大部分は2歳以上で成熟する。
- ③ 産卵期：12～1月。
- ④ 分布：沖縄を除く日本各地。
- ⑤ 生態：夏に砂潜して夏眠する。仔稚魚、未成魚、成魚ともカイアシ類を主要な餌料とする。小型の仔魚では植物プランクトンやカイアシ類の卵及びノープリウス幼生を、成長に伴い *Acartia* 属、*Paracalanus* 属や *Calanus* 属のコペポデイドや成体を捕食する。

主な漁業と漁期

当歳魚（コウナゴ）は火光利用敷網、成魚（メロード）はすくい網で共に春季に漁獲される。

資源動向と水準

漁獲量は、1995年以降、数千トンから1万トン程度で推移していたが、成魚では2017年、当歳魚では2019年に急激に減少した。2020年および2021年の漁獲量はゼロ、2022年は35トン（当歳魚）の水揚げがあったが、2023年は再びゼロとなり、2024年は火光利用敷網で初の休漁となった。

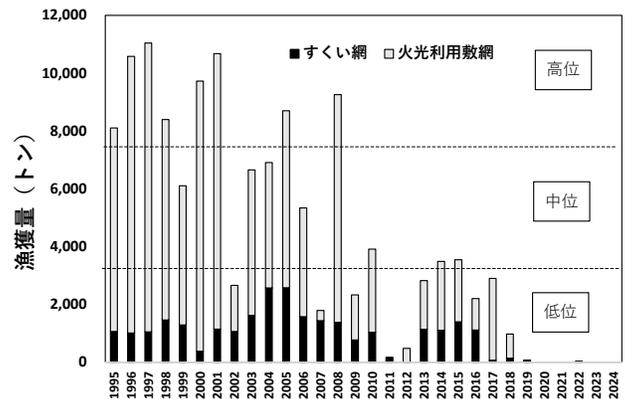


図1 宮城県におけるイカナゴの漁獲量の推移

※高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。

参考文献

- 1) 橋口晴穂・西川哲也・魚住香織・古澤一思・森敦史・今尾和正・反田實 (2021) 播磨灘におけるイカナゴ当歳魚の胃内容物重量指数の経年的低下とその要因. 水産海洋研究 85, 24-32.
- 2) 関口秀夫 (1977) 伊勢湾のプランクトン食性魚イカナゴの摂餌について. 日本水産学会誌 43, 417-422.
- 3) 松本育夫・田中利幸 (2001) 福島県海域のイカナゴの食性について. 福島県水産試験場研究報告 10, 57-62.
- 4) 佐藤智希 (2004) 女川湾に優占する仔魚期魚類の食性に関する研究. 博士論文, 東北大学, 宮城

ツノナシオキアミ (*Euphausia pacifica*)

生態

- ① 寿命：～2歳。
- ② 成熟：成熟個体の漁獲が少ないため、情報が少ない。
- ③ 産卵期：春期を盛期とする周年。
- ④ 分布：三陸沖から北太平洋に広く分布。
- ⑤ 生態：本種を餌とする生物は多岐に渡り、沿岸部の生態系を支える重要な餌生物である。

主な漁業と漁期

春季に親潮と共に南下し、日中に浮上した成体の群を船曳網により漁獲する。

資源動向と水準

漁獲量は親潮の接岸と密接な関連が有り、親潮が中程度の規模で南下する年には沿岸水温が好適となり漁獲量が増加する。近年は親潮が南下しないため漁獲量が低位になっていると考えられる。1994年以降、漁業者は自主調整基準を設定し資源管理に取り組んでいるが、震災後に漁獲量は減少し、近年は上限を大きく下回っている。2024年は親潮が宮城県内に波及せず、はじめて水揚げゼロとなった。

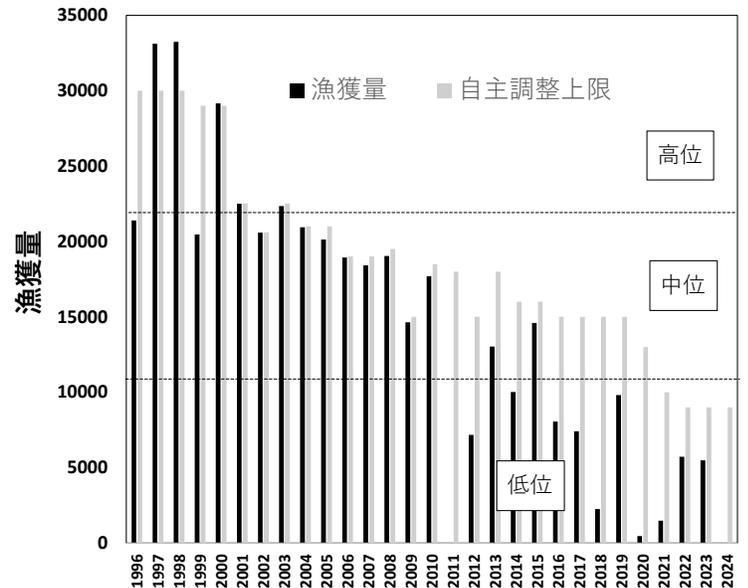


図1 宮城県におけるツノナシオキアミの漁獲量の推移。
※高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。



参考文献

- 1) Taki K (2006) Studies on fisheries and life history of *Euphausia pacifica* HANSEN off northeastern Japan. Bull. Fish. Res. Agen. No. 18, 41-165.

サヨリ (*Hemiramphus sajori*)



生態

- ①寿命：2歳と考えられている。
- ②成熟：早いものでは満1歳で成熟する。最大で40cm程度になる。
- ③産卵期：春から初夏にかけ、藻場、流れ藻、浮遊物に産卵する。
- ④分布：日本各地の沿岸から台湾、朝鮮半島沿岸まで分布する。
- ⑤生態：小型甲殻類や動物プランクトンを捕食する。

主な漁業と漁期

全国的に、主にさより2そう曳き網で漁獲される。本県ではさより2そう曳き網（県知事許可漁業）のほか、刺し網での漁獲も見られる。12月～2月の冬の時期にかけて水揚げが多くなっている。

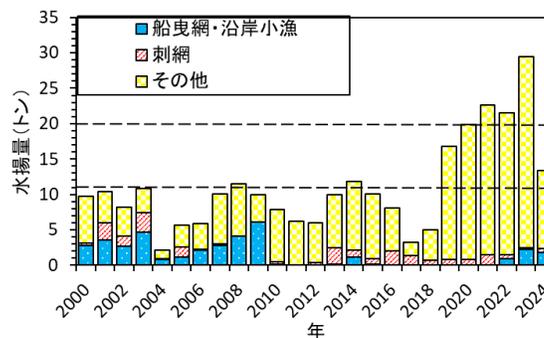
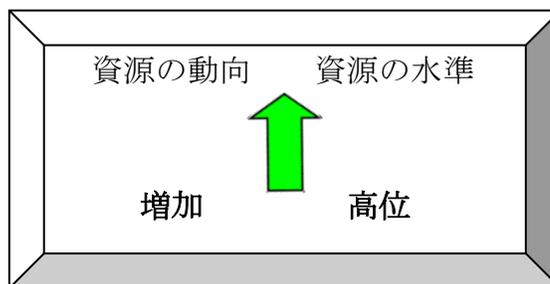


図1 宮城県におけるサヨリの水揚量の推移

資源動向と水準

2000年以降の本県における水揚量は、水揚げの少なかった2004年、2017年、2018年を除き10トン程度で推移していたが、2019年以降水揚量は20トン前後まで急増、2023年の水揚げは30トンで過去最高となった。

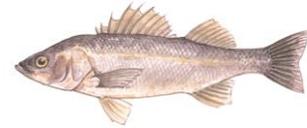
2024年の水揚げは13トンと昨年に比べ減少したが、単年の結果であり、2023年まで水揚げは増加していたことを踏まえ、本県におけるサヨリ資源は増加傾向にあると判断した。



参考文献

- 1) 茨城県水産試験場 (2022) 茨城県産重要魚種の生態と資源 「サヨリ」
https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/suishi/teichaku/documents/r3_sayori.pdf
- 2) 辻敏宏・貞方勉 (2000) 我が国におけるサヨリ漁業の実態, 石川県, pp.1-11

スズキ (*Lateolabrax japonicus*)



生態

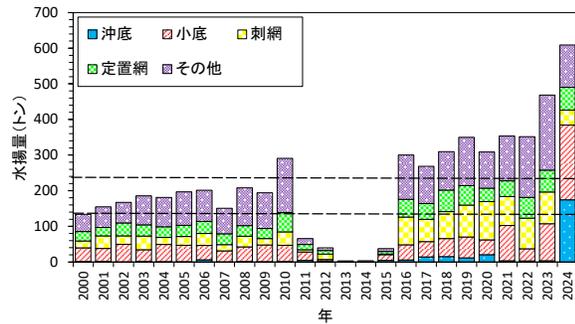
- ① 寿命：7歳以上。
- ② 成熟：仙台湾に生息する1歳以上のスズキは、夏に接岸し、主として礁を中心とする地帯で魚類・エビ類を主食として成長を続け、多くは4年魚の終りの12月に初めて産卵を行う。
- ③ 産卵期：水温の下降期および最低期にあり、仙台湾では12月中旬～1月上旬。
- ④ 分布：北海道南部以南の日本各地沿岸、朝鮮半島沿岸、台湾、中国沿岸の外洋域から汽水域、淡水域まで広く分布する。
- ⑤ 生態：日の出と日没時に食欲がピークとなり、視覚で小魚やエビ・イカ等、特に動く餌に興味を示す。餌料生物としては、未成魚期でアミ類、エビ類、稚魚、イカナゴ、キシエビ、成魚期でアユ、カタクチイワシ、マアジ、マイワシ、マサバ、ヒラメ、クルマエビ、サヨリ等。

主な漁業と漁期

底曳網、刺網、巻網、一本釣り、定置網により漁獲され、主に刺網による漁獲が多い。

資源動向と水準

スズキの水揚量は、2010年に290トンを超えたが、2011年～2015年までは100トン未満の低位水準で推移した。なお、2011年は東日本大震災の影響で水揚げが減少した。また、2012年4月12日から2015年11月20日まで放射性セシウムの基準値を上回ったことから出荷制限措置が講じられたことで水揚量が少ない。2016年以降は300トン前後と高位水準で推移し、2024年は609トンで過去最高を更新した。資源水準は高位、動向は増加と判断される。



※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

※2011～2015年は資源水準の算出から除外した。



参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 35-40.
- 2) 畑中正吉・関野清成 (1962) スズキの生態学的研究-II スズキの成長, 日水誌, 28, 857-861.

サワラ (*Scomberomorus niphonius*)

生態

- ①寿命：6歳程度。
- ②成熟：雌雄ともに1歳魚の一部が成熟し、2歳以上では大部分が成熟する。
- ③産卵期：3～6月。本県で産卵しているかについては不明。
- ④分布：日本周辺では東シナ海から日本海、紀伊半島以西の太平洋および瀬戸内海に分布する。
日本海北区と宮城県定置網の漁獲量に正の相関(1995年～2018年)があることから、日本海の水況変動に伴う回遊経路の変化により、日本海から津軽海峡を通過して春季と秋季に本県沿岸水域へ来遊するサワラが増加したものと考えられる(戸嶋ら2013)。
- ⑤生態：生活史を通じて魚食性が非常に強い。

主な漁業と漁期

主要漁業は、過去はまぐろ延縄が多かったが、近年は定置網が多くを占める。水揚量が多い年は、春季と秋季が主漁期となる傾向にあるが、水揚量が少ない年は明確なピークが見られない時もある。

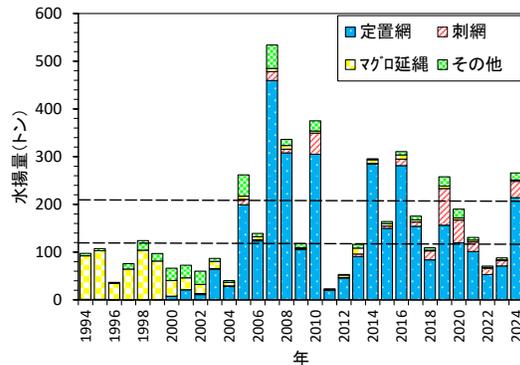


図1 宮城県におけるサワラの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

資源動向と水準

サワラの水揚量は、2003年以降定置網による水揚げが増加しているが、年によって増減が激しく、2023年は88トンと低水準であったが、2024年は大きく増加し266トンであった。資源水準は高位、動向は増加と判断される。



参考文献

- 1) 平岡優子・黒田啓行・藤波裕樹・田邊智唯・(2024) 令和5(2023)年度サワラ日本海・東シナ海系群の資源評価.東京, 28pp.
https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_58.pdf.
- 2) 濱崎清一(1993) 東シナ海・公開に分布するサワラの年齢と成長. 西水研県報, 71, 101-110.
- 3) Shoji, J., T.Kishida and M.Tanaka (1997) Piscivorous Habits of Spanish Mackerel Larvae in the Seto Inland Sea, 63, 388-392.
- 4) 戸嶋孝・太田武行・児玉晃治・木所英昭・藤原邦浩(2013) 漁獲状況および標識放流試験からみた近年の日本海におけるサワラの分布・移動. 京都府農林水産技術センター海洋センター研究報告, 35, 1-11.

アイナメ (*Hexagrammos otakii*)



生態

- ①寿命：常磐北部海域における市場調査をもとに得たデータでは10歳程度の個体が確認されている。
- ②成熟：オスは満1歳、メスは満2歳で一部が成熟する。多回産卵型で、産卵後オスが卵塊を保護する。仙台湾における最大体長は390 mmである。
- ③産卵期：産卵期は11～1月で、盛期は12月頃とされている。
- ④分布：水深200 m以浅の沿岸域に広く分布する。
- ⑤生態：甲殻類や魚卵などを主に捕食する。

主な漁業と漁期

宮城県では刺網や沿岸小漁のほか、様々な漁業種で漁獲される。宮城県における主漁期は4月～6月頃である。

資源動向と水準

本県におけるアイナメの水揚量は、2000年～2004年まではおよそ120トン以上で安定して高位水準を維持していた。しかし、2004年～2005年にかけて減少し、2011年に大幅に減少した。2012年以降増加傾向に回復したが、2018年以降再び減少傾向となった。2024年の水揚量は34トンであった。

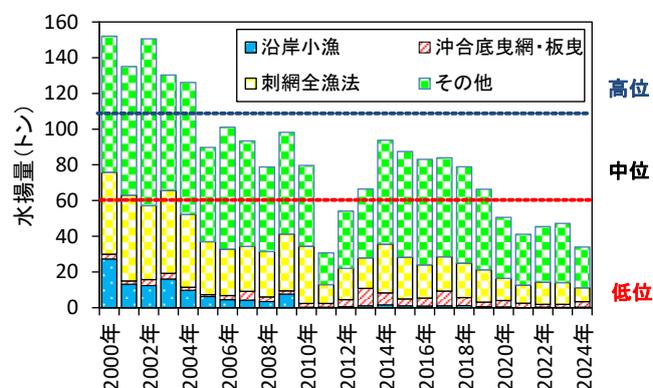
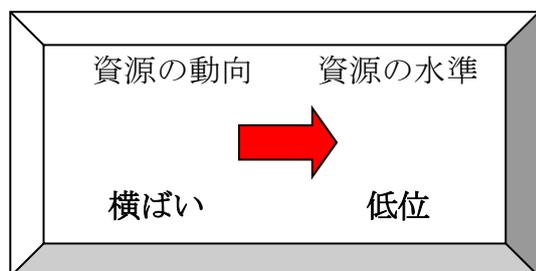


図1 宮城県におけるアイナメの水揚量の推移

参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター・岩手県水産技術センター・宮城県水産技術総合センター・福島県水産海洋研究センター (2021) アイナメ太平洋北部 (岩手・福島).令和2 (2020) 年度資源評価調査報告書. 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 7 pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2020/trends/202001.pdf>
- 2) 小林徳光・小林一郎・菊地喜彦・佐藤孝三 (1990) 仙台湾におけるアイナメの年齢と成長. 宮城水試研報, 13, 1-9.
- 3) 泉茂彦 (1999) 常磐北部海域におけるアイナメの成長と成熟. 福島水試研報, 8, 41-49.
- 4) 関河武史・高橋豊美・高津哲也 (2002) 北海道木古内湾におけるアイナメ *Hexagrammos otakii* の年齢と成長. 水産増殖, 50, 395-400.



マアナゴ (*Conger myriaster*)

生態

- ① 寿命：6歳。
- ② 成熟：成熟個体の漁獲が少ないため、情報が少ない。
- ③ 産卵期：6～9月。
- ④ 分布：沖縄を除く日本沿岸のほぼ全域。
- ⑤ 生態：マアナゴの産卵については不明な点が多いが、産卵場の一つが沖ノ鳥島南方の九州パラオ海嶺付近で確認されている。孵化後、葉形仔魚として黒潮に輸送され宮城県海域まで来遊する。黒潮が強勢であった2023年には葉形仔魚の大量来遊が確認された。変態直後の稚魚はカイアシ類などの甲殻類稚仔、多毛類などの小型の底生生物を捕食し、成長するとエビ類や底生魚類などを捕食するようになる。

主な漁業と漁期

様々な漁法で漁獲されるが、宮城県漁業表浜支所の筒漁業の割合が高い。

資源動向と水準

2020–2022年は新型コロナウイルス感染症による商取引の減少等の影響で200トン台に減少したものの、おおむね300–500トン程度で推移している。2024年の漁獲量は333トンでコロナ渦前の水準に回復した。

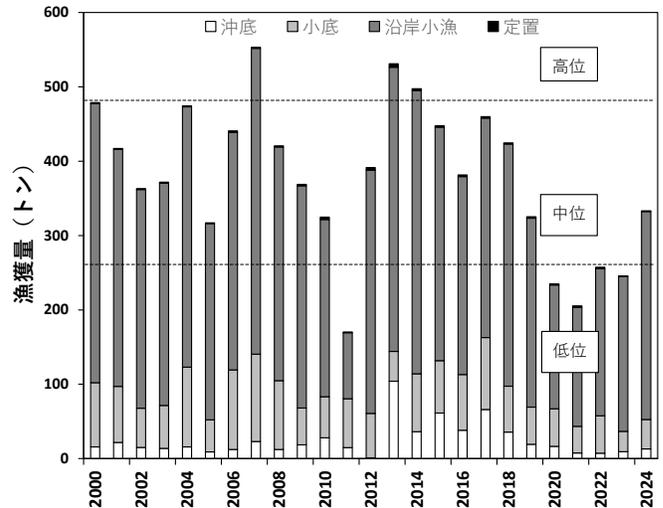
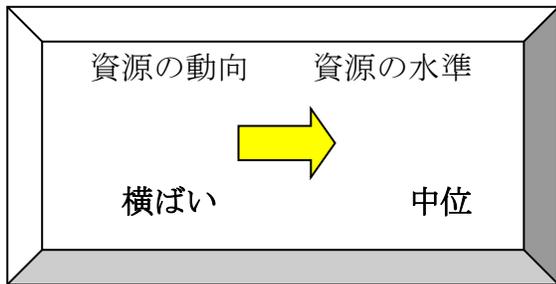
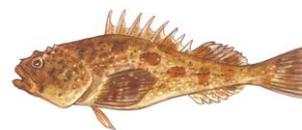


図1 宮城県におけるマアナゴの漁獲量の推移。
※高位・中位・低位の判断は年平均漁獲量
(±30%)を基準とした

参考文献

- 1) Mu X, Zhang C, Zhang C, Xu B, Xue Y, Ren Y (2018) Age determination for whitespotted conger *Conger myriaster* through somatic and otolith morphometrics. PLoS ONE 13(9): e0203537.
- 2) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター (2021) 令和3年度マアナゴ伊勢・三河湾の資源評価. <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/index.html>
- 3) 石川哲郎, 鈴木貢治, 矢倉浅黄, 長岡生真, 小山光久, 木村博明, 高橋正晴, 芳賀晴也, 高松秀樹 (2024) 2023年に石巻湾で確認されたマアナゴ葉形仔魚の大量来遊. 日本水産学会誌, 90, 355-357.

ケムシカジカ (*Evynnis japonica*)



生態

- ① 寿命：不明。
- ② 成熟：3月から5月が索餌盛期で、9月頃まで索餌期が続く。秋季から冬季には成熟、産卵期に向かう。
- ③ 産卵期：11月から12月。
- ④ 分布：東北地方および石川県以北の沿岸、黄海、日本海北部、オホーツク海、ベーリング海など北太平洋に広く分布する。
- ⑤ 生態：イカナゴ、ギンポ類、エゾイソアイナメ、クサウオ、キシエビ特にイカナゴが重要な餌生物である。イカナゴが夏眠に入ると、捕食できなくなり、キシエビがこれに替わる餌生物となる。

主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網により漁獲される。

資源動向と水準

ケムシカジカの水揚量は、2002年に100トン以上の水揚量を示したが、2014年以降は30トン以下の低位水準で推移していた。2024年は2トン台であった。

直近5ヶ年の水揚動向から、資源動向、水準は横ばい、低位と判断された。

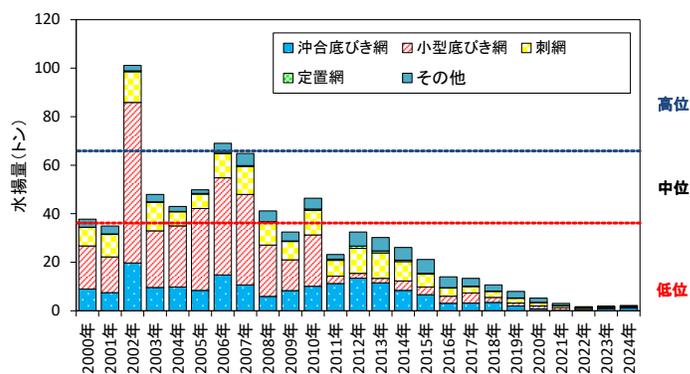
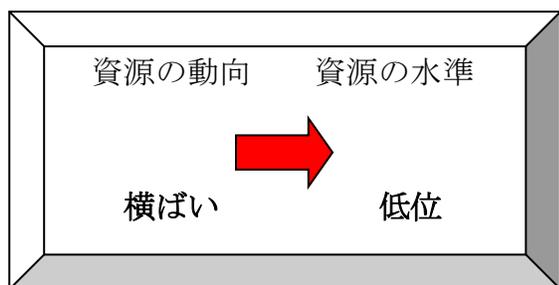
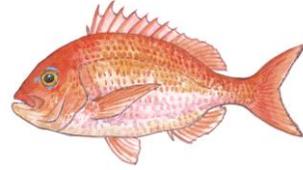


図1 宮城県におけるケムシカジカの水揚量の推移
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 135-138.

マダイ (*Pagrus major*)

生態

- ① 寿命：普通 25 歳、稀に 35 歳とされるが、神奈川水試の飼育記録では 30 歳以上。
- ② 成熟：産卵場へ成魚が来遊する時の水温は 14℃前後が多く、この水温が出現する時期は海域によって異なる。南方の海域ほど早く、北方では遅い傾向がある。
- ③産卵期：生息域の水温が 14～15℃に上昇すると産卵が始まり、21～23℃になると産卵を停止する。
- ③ 分布：北海道東部・北部や琉球列島を除く日本列島周辺の沿岸域、朝鮮半島南部、東シナ海、南シナ海、台湾に分布する。日本沿岸では黒潮および対馬暖流の沿岸域を中心に分布し、特に大陸棚が発達した東シナ海やほぼ全域が浅海域の瀬戸内海で最も多く、大陸棚が局所的に広がる日本海西部でも多い。大陸棚が未発達な太平洋や日本海北部沿岸域では少ない。
- ④ 生態：当歳魚の餌料は主にアミ類、ヨコエビ類、多毛類等で、1 歳魚以上ではエビ類、カニ類、シャコ類などの甲殻類、ヒトデ類、魚類等の大型の底生生物が主体となる。

主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網、延網、一本釣り、定置網により漁獲される。

資源動向と水準

マダイの水揚量は、2013 年に 400 トンを超えたが、2016 年以降は 200 トン前後の中位水準で推移した。2021 年以降再び増加傾向であり、2024 年の水揚量は 583 トンで 1995 年以降では過去最高となっている。

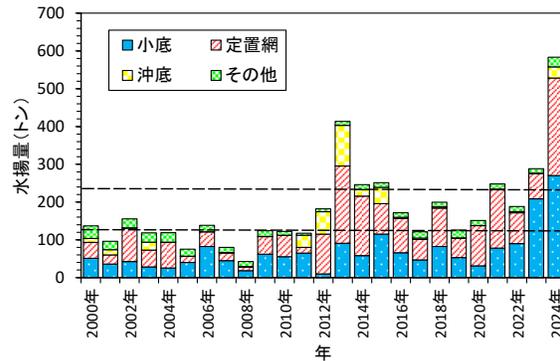
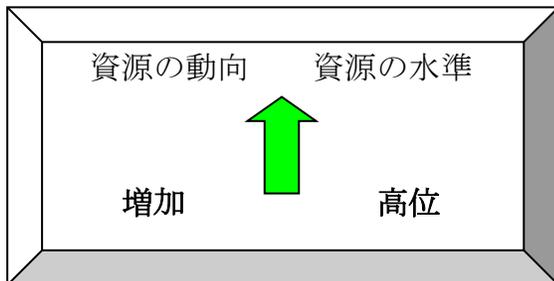
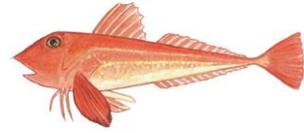


図1 宮城県におけるマダイの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界
中位と低位の境界を表す。

参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 71-75.

カナガシラ (*Lepidotrigla microptera*)



生態

- ①寿命：宮城県海域のカナガシラの最高年齢は雄が11歳、雌が12歳。
- ②成熟：成熟年齢は3歳で、成熟とともに成長が停滞する。雌のほうが大きくなる。
- ③産卵期：宮城県海域や陸奥湾では産卵盛期は6月から8月。
- ④分布：北海道南部以南から東シナ海まで分布する。
- ⑤生態：餌生物の大部分はマルソコシラエビ、ヨコエビ類、エビ・カニ類。

主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網、定置網により漁獲される。

資源動向と水準

カナガシラの水揚量は、2000年代前半は40トン以下の低位水準で推移していた。2012年以降水揚量が増加し、2017年は300トンを超える高位水準を示した。2018年以降減少傾向となったが、2022年以降は増加傾向となり、2024年は246トンであった。

直近5ヶ年の水揚動向から、資源動向、水準は増加、中位と判断された。

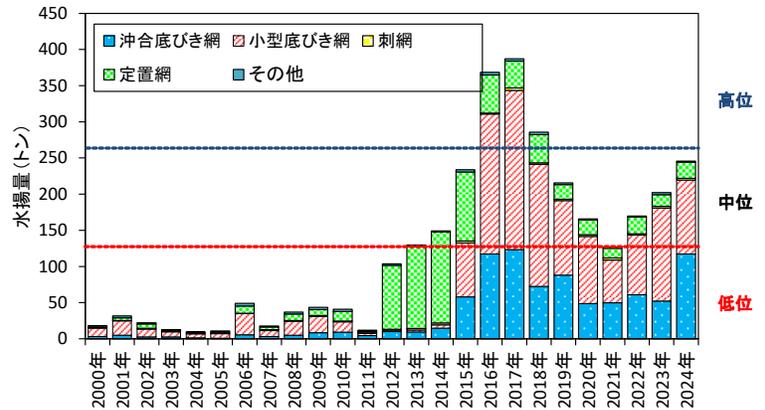
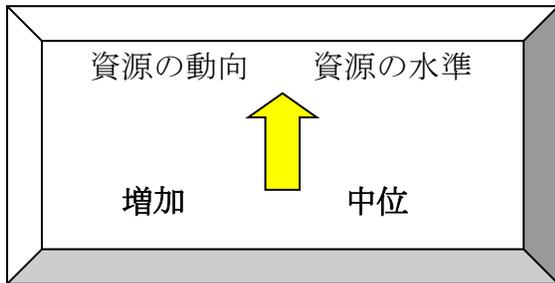
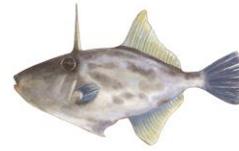


図1 宮城県におけるカナガシラの水揚量の推移
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

参考文献

- 1) 藤岡崇・高橋豊美・前田辰昭・中谷敏邦・松島寛治 (1990) 陸奥湾におけるカナガシラ成魚の生活年周期と分布. 日水誌, 56, 1553-1560.
- 2) 岡村悠梨子・片山知史・奥野雄貴・楊 曦彤・増田義男 (2021) 宮城県沿岸におけるカナガシラの水揚げ量の増加と生活史特性. 水産増殖, 69, 177-184.

ウマヅラハギ



(*Thamnaconus modestus*)

生態

- ①寿命：10年。
- ②成熟：2歳から成熟個体が出現し、4歳以上で90%以上が成熟する。
- ③産卵期：我が国沿岸各地では夏季に産卵する。
- ④分布：我が国周辺、東シナ海、黄海に分布する。
- ⑤生態：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類など幅広い食性を示す。

主な漁業と漁期

本県では地方名「ギハ」や「ギハギ」と呼ばれ、主に定置網によって漁獲される。主な漁期は4月～5月頃と11月～12月頃で年2回ピークがみられる。

資源動向と水準

ウマヅラハギの水揚量は、1995～2002年までは80トン～170トン台の中位～高位水準で比較的安定して推移していた。2003年～2016年までは年によって異なるものの、2006年と2010年を除いて中低位水準で推移した。2017年以降は2020年を除いて中位水準で推移し、2024年の水揚量は95トンである。

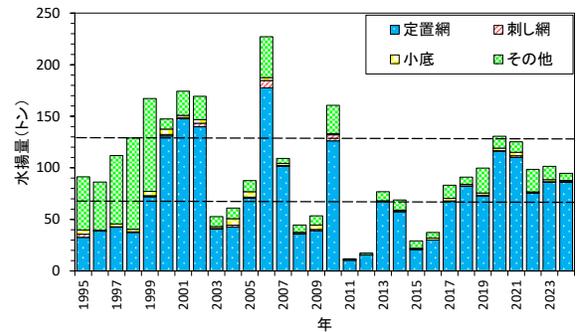
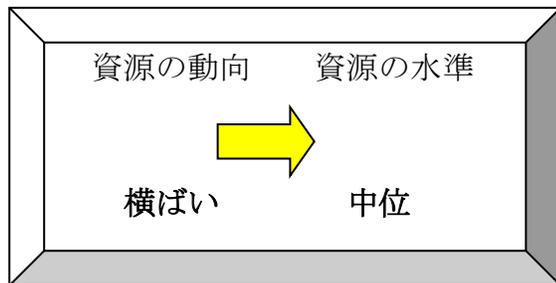


図1 宮城県におけるウマヅラハギの水揚量の推移。

※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す



参考文献

- 1) 五味伸太郎・酒井猛（2023）令和4（2022）年度ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価，水産庁・水産研究・教育機構，東京，22pp，https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/07/details_2022_72.pdf.

ヒラメ (*Paralichthys olivaceus*)



生態

- ①分布：日本沿岸のほぼ全域。東北海域では主に水深 30～150 m 以浅の陸棚域に分布し、産卵期には水深 20～50 m 以浅の粗砂及び砂礫地帯に移動。本県沿岸は太平洋北部系群に分類。
- ②成熟・産卵：東北海域での成熟サイズ及び年齢は、雄では全長 35 cm で 2 歳以上、雌では全長 44 cm で 3 歳以上。仙台湾から常磐海区では 5～9 月が産卵期。
- ③成長及び寿命：2 歳以上で雌が雄を上回り、2 歳の場合雄で全長約 35 cm，雌で 44 cm。雌で 12 歳，雄で 10 歳が捕獲されている。
- ④食性：着底後の稚魚はアミ類，全長 10 cm 以上でカタクチイワシ，マイワシ，イカナゴなどの魚類を捕食する。

主な漁業と漁期

小型底曳網及び刺し網による漁獲が多い。漁業は周年行われているが、6 月と 10 月頃に漁獲量が増加する。

資源動向と水準

本県の 2000～2023 年の平均漁獲量（2011 及び 2012 年を除く）から判断した資源水準は中位で、資源動向は横ばいと判断した（図 1）。

ヒラメ太平洋北部系群の資源量は東日本大震災後急増し 2014 年には 1 万トンを超えたが、その後減少に転じた。2022 年は 6,556 トンと推定されている（図 2）。

本種は 1990 年代から盛んに種苗放流が行われているほか、本県では資源管理措置として小型魚（牡鹿半島以北では 30cm 未満、仙台湾では 35cm 未満）の漁獲制限を設けている。

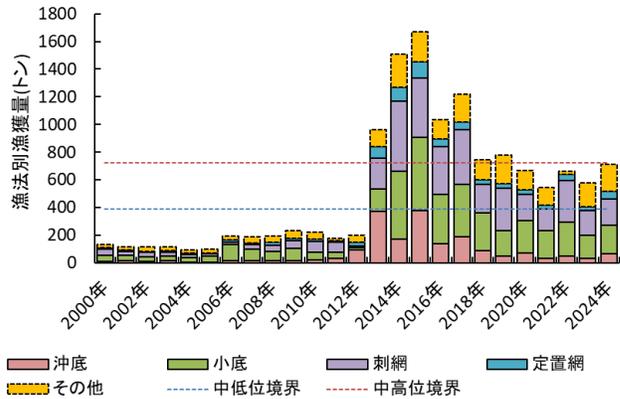
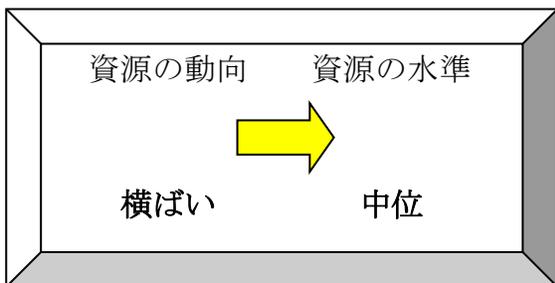


図 1 宮城県におけるヒラメの漁法別水揚量の推移 (2000 年～2023 年)

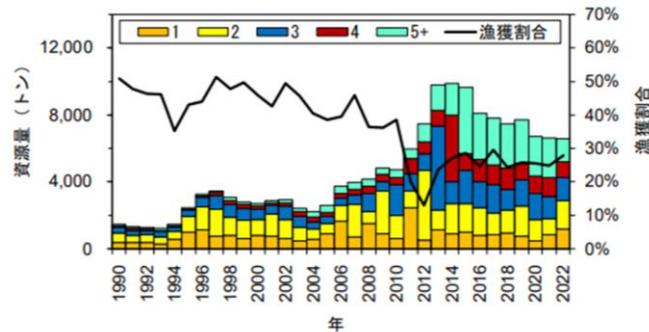


図 2 ヒラメ太平洋北部系群の資源量（富樫ら 2023 参照）

参考文献

- 1) Temperature influence on larval growth and metamorphosis of the Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* in the laboratory. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish., 52, 977-982.3wq11
- 2) 北川大二・石戸芳男・桜井泰憲・福永辰廣(1994)三陸北部沿岸におけるヒラメの年齢, 成長, 成熟. 東北水研研報, 56, 69-76.
- 3) 富樫博幸・成松庸二・鈴木勇人・森川英祐・時岡駿・三澤遼・金森由妃・永尾次郎・櫻井慎大 (2024) 令和5 (2023) 年度ヒラメ太平洋北部系群の資源評価. 東京, 17 pp, https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_60.pdf
- 4) 宮城県(平成23年)宮城県資源管理指針

マコガレイ (*Pseudopleuronectes yokohamae*)

生態

- ①寿命：仙台湾では雌で12歳、雄で8歳とし、解析が行われている。
- ②成熟：雄は全長20.0～21.9 cmのおよそ2歳、雌は全長28.2 cmのおよそ2歳で成熟する。
- ③産卵期：産卵期は12～翌1月で、1産卵期1回型の産卵様式である。
- ④分布：北海道から九州。
- ⑤生態：多毛類やイソギンチャク目の一種、二枚貝の水管、ラスバンマメガニを捕食する。

主な漁業と漁期

刺網と小型底曳網による漁獲が大部分を占める。主な漁期は産卵期の12～翌2月と、索餌時期かつヒラメの代替品として単価の高い5～7月。水揚量の8割は牡鹿半島以南の仙台湾で水揚げされている。近年は過去最低レベルの漁獲量であり、2024年の水揚量は56トンであった(図1)。

資源動向と水準

仙台湾の資源動向(図2)：VPAによる資源量推定結果(Mを雄0.31、雌0.21と仮定。Popeの近似式を仮定)より、1996～2004年の資源量は300トン程度で推移し、震災翌年以降、2014年に1,600トン程度まで増加したが、それ以降減少に転じている。過去の資源量の平均値を指標とし、現在の資源量水準は低位、最近5年間の漁獲動向から減少傾向と判断した。

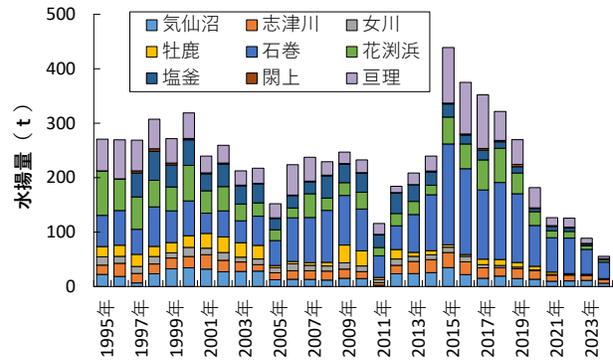


図1 宮城県におけるマコガレイの市場別水揚量の推移

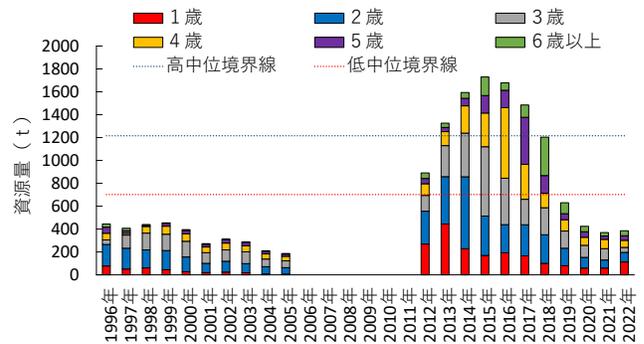


図2 仙台湾におけるマコガレイの資源量の推移

※2022年の値は暫定値

トピックス

2008年2月に資源回復計画を策定し、産卵場における保護区の設定（仙台湾）や、刺網による産卵期の休漁、目合制限、小型魚の保護（全長20 cm、牡鹿半島以北）や産卵後親魚の再放流等に取り組んでいる。

参考文献

- 1) 大森蓮夫 (1974) 仙台湾における底魚の生産構造に関する研究 I. 日本水産学会誌, **40** (11), 1115-1126.
- 2) 菊地喜彦・小林徳光・永島宏・小林一郎・児玉純一・佐藤孝三 (1990) 仙台湾におけるマコガレイの分布について. 宮城県水産試験場研究報告, **13**, 30-42.
- 3) Hatanaka, M., and Iwahashi, S., (1952) Studies on the populations of the flatfishes in Sendai Bay III. The biology of *Limanda yokohamae* (Gunther). Tohoku journal of agricultural research, **3**(2), 303-309.
- 4) 佐伯光広・菊地喜彦 (2000) 宮城県沿岸域における異なる海域間で漁獲されたマコガレイの成長, 産卵期及び遺伝的差異について. 宮城県水産研究開発センター研究報告, **16**, 61-70.
- 5) 佐藤羊三郎 (1972) マコガレイ (日出シロシタガレイ) の水槽内自然産卵について. 水産増殖, **19**, 183-186.
- 6) 高橋清孝・尾形政美・雁部総明・佐伯光広 (2006) 仙台湾におけるマコガレイ親魚の保護による資源管理. 宮城県水産研究報告, **6**, 21-26.

マガレイ (*Pseudopleuronectes herzensteini*)



生態

- ①分布・回遊：仙台湾南部 30 m 以深の粒度の粗い砂質での漁獲が多い。冬期は沿岸、秋期は沖合という季節的浅深移動をする（山廻邊 2007）。
- ②年齢・成長：von Bertalanffy の成長式から推定された雌雄別全長は雌雄で成長差があり、雄は 6 歳で体長約 30 cm、雌は 6 歳で体長約 40 cm に達する。
- ③成熟・産卵：産卵期は 1～6 月と長期に及ぶが、最盛期は 3～4 月と考えられている（佐伯 2002）。
- ④被捕食関係：甲殻類や多毛類、魚類などさまざまな餌生物を餌として利用している。

主な漁業と漁期

主な漁期は 9～11 月であり、沖合底曳網及び小型底曳網による漁獲が多いが、近年は小型底曳網の漁獲が大部分を占める。2015 年以降漁獲量は減少傾向にある（図 1）。

資源動向と水準

仙台湾の資源動向については、VPA による資源量推定結果（M を雄 0.25、雌 0.21 と仮定。Pope の近似式を仮定）より（図 2）、震災翌年以降、2013 年に約 1,900 トン程度であった資源量は、それ以降減少に転じている。過去の漁獲量の平均値の±30%を指標とすると、直近 2022 年漁期は暫定値ながら、資源水準は低位であり、最近 5 年間の漁獲動向から減少傾向にあるとした。

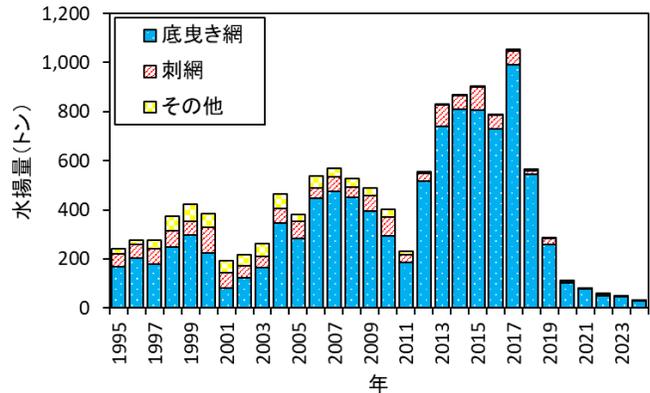
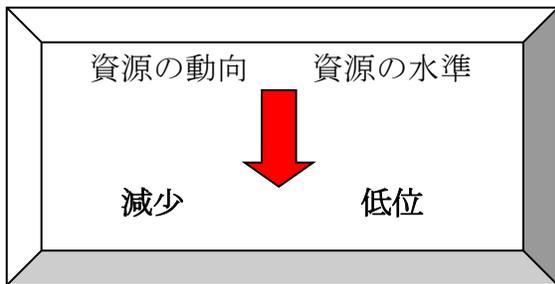


図 1 宮城県におけるマガレイの漁法別水揚量の推移

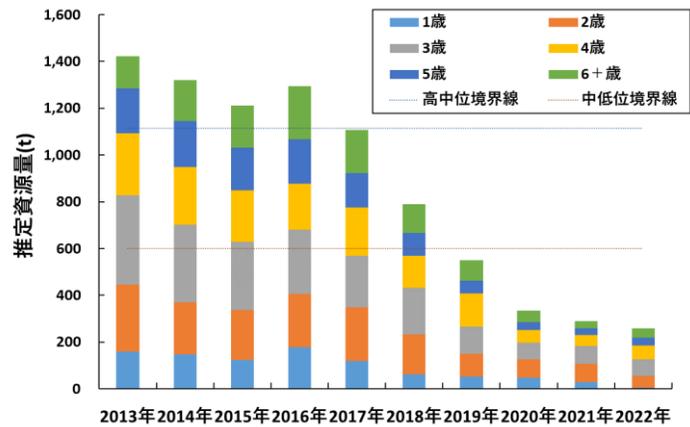


図 2 仙台湾におけるマガレイの推定資源量の推移

参考文献

- 1) 岡村悠梨子・鈴木貢治 (2020) 仙台湾におけるマガレイの資源量推定. 宮城県水産研究報告, 20, 1-7.
- 2) 佐伯光広 (2002) 宮城県におけるマガレイの資源生態と近年の資源動向. 東北底魚研究, 22, 34-36.
- 3) 山廻邊昭文 (2007) 福島県における近年のマガレイの漁獲と加入量変動. 福島県水産試験場研究報告, 14, 1-9.

ホシガレイ (*Verasper variegatus*)



生態

- ①分布・回遊：北海道以南の日本各地に生息する。水深 10 m 以浅から水深 150 m の砂底で漁獲される。
- ②年齢・成長：雌雄で成長差がみられ、最大全長は雄より雌の方が大きい。他の異体類と比べ成長が極めて早く、満 2 歳で 40 cm に達する個体も見られる。高齢魚では最大で全長 60 cm、6 kg に達する。
- ③成熟・産卵：産卵期は概ね 12~2 月で、雄では 1 歳の秋から成熟、雌では 2 歳の秋から成熟が見られる。産卵場は、仙台湾においては水深 100~150 m の海域と考えられている。
- ④食性：着底直後から甲殻類を専食する。

主な漁業と漁期

刺網、沖合底曳網、小型底曳網で漁獲される (図 1)。6 月から 7 月の初夏が例年漁獲のピークである。

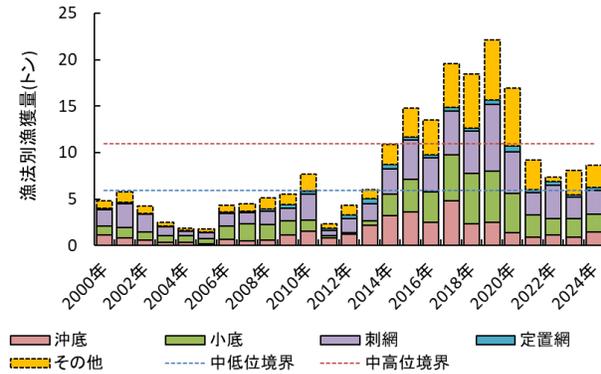
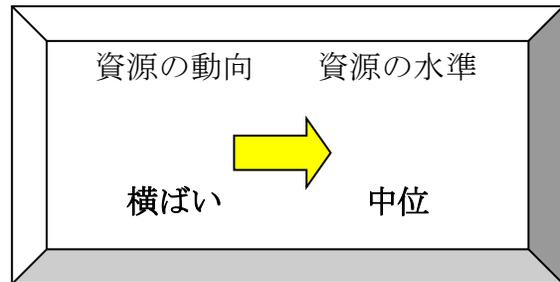


図 1 宮城県におけるホシガレイの漁法別水揚量の推移

資源動向と水準

本種は稚魚放流が行われており、震災後には漁獲が増加した。過去の漁獲量の平均値の±30%を指標とした漁獲動向としては、直近数年については減少傾向にあり、漁獲水準としては中位と判断された。



参考文献

- 1) 根本芳春・藤田恒雄・渡邊昌人(1999)ホシガレイに関する研究-I. 福島水試研報, 8, 5-16.
- 2) 島村信也・安岡真司・水野拓治・佐々木恵一・根本芳春(2007)ホシガレイに関する研究-II 漁業実態と福島県沿岸における生活史. 福島水試研報, 14, 69-90.
- 3) 渡邊一仁(2011)宮城県におけるホシガレイの漁獲動向と放流効果. 東北底魚研究, 31, 105-112.
- 4) 雁部総明(2014)VPA 解析結果からみたホシガレイの資源動向について. 東北底魚研究, 34, 31-37.

ジンドウイカ (*Loliolus japonicus*)



生態

- ①寿命：最近の研究で雄が8か月、雌が9か月ということが明らかとなった。
- ②成熟：ほぼ周年成熟個体が見られるが、春から秋にかけて成熟個体の割合が多い。小型成熟群（冬春生まれで夏秋成熟・産卵）と大型成熟群（夏秋生まれで冬春成熟・産卵）の2群が存在する。
- ③産卵期：ほぼ1年中行われ、主産卵期は5月～9月。
- ④分布：北海道南部以南の琉球列島を除く日本各地、黄海・東シナ海～南シナ海（ベトナム）の浅海域に分布する。本県では小型底びき網の重要な漁獲対象種である。
- ⑤生態：小規模な深浅回遊を行い、9月～2月に沖合～離岸し（最大水深170m程度まで）、4月以降浅い海域へ接岸する。

主な漁業と漁期

本県では地方名「ヒイカ」や「小イカ」と呼ばれ、小型底びき網主体に沖合底びき網、定置網等によっても漁獲される。周年漁獲されるが、主な漁期は10月～3月頃。

資源動向と水準

ジンドウイカの水揚量は、2016年までは300トン～700トン台の中位～高位水準で比較的安定して推移していたが、2017年以降減少し、2019年以降は横ばい推移していたが、2024年は大きく減少し、水揚量は67トンで過去最低となった。

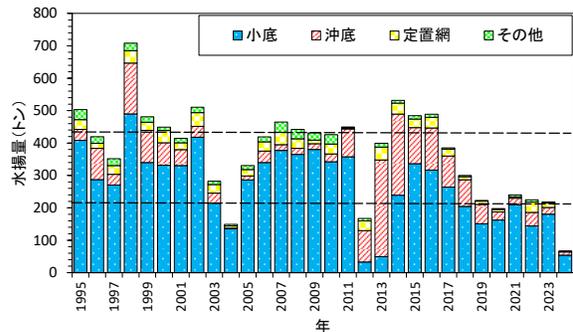


図1 宮城県におけるジンドウイカの水揚量の推移 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

参考文献

- 1) 武智 博 (1989) 仙台湾に分布するジンドウイカの資源構造. 東北大学博士論文. 175 pp.
- 2) 海藤 齊・永井雄幸・福田敏光・中井純子 (1999) 石狩湾におけるジンドウイカの産卵生態. 平成10年度イカ類資源研究会議報, 88-95.
- 3) 増田義男・岡村悠梨子 (2022) 仙台湾におけるジンドウイカの成長と成熟. 東北底魚研究, 42, 37-40.
- 4) 時岡 駿・藤原邦浩・増田義男 (2024) ICT 機器データから見た仙台湾におけるジンドウイカの分布特性. 東北底魚研究, 44, 159-164.
- 5) Masuda Y., S.Tokioka, Y. Okamura and S. Katayama (2025) Age, growth and maturation of Japanese dwarf squid *Loliolus japonicus* in Sendai Bay. Fish. Sci.,doi.org/10.1007/s12562-025-01861-x



マダコ (*Octopus sinensis*)

生態

- ① 寿命：～2歳。
- ② 成熟：体重 500 g 程度～。
- ③ 産卵期：3～6月、9～10月。
- ④ 分布：東アジア沿海の温帯・熱帯海域に広く分布する。
- ⑤ 生態：本県へ来遊するマダコの主産卵場は鹿島灘周辺と考えられ、ここで発生した幼体が北上暖水により福島から三陸沿岸へ運ばれ、冬までに体重 1 kg 以上に成長し、11～12月になると南下して産卵場へ向かうとされている。一部のマダコは牡鹿半島周辺や三陸沿岸に残留し産卵しているとの推測もあるが、確かめられていない。

主な漁業と漁期

主に 10～12 月に沿岸小漁（カゴ漁）などにより漁獲されている。

資源動向と水準

2017 年から漁獲量が増加しており、近年の北上暖水の強勢を反映しているものと考えられる。2024 年の水揚量は 659 トンで好漁となった。

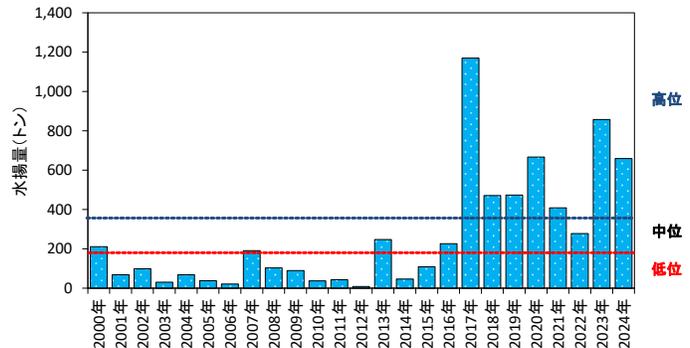
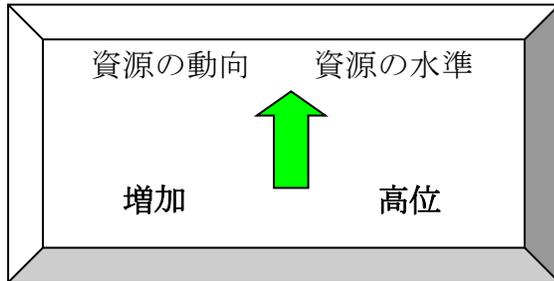


図1 宮城県におけるマダコの漁獲量の推移。高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。

参考文献

- 1) Leporati SC, Semmens JM, Pecl GT (2008). Determining the age and growth of wild octopus using stylet increment analysis. *Marine Ecology Progress Series*, 367, 213-222.
- 2) 上田拓 (2010) 関門地区におけるマダコの成熟ならびに成長. 福岡県水産海洋技術センター研究報告 20, 1-9.
- 3) 秋元義正, 佐藤照 (1980) マダコの生態-1 漁獲量の変動と移動. 福島水試研報, 6, 11-19.
- 4) 高橋 清孝 (2022) 海水温上昇による仙台湾と三陸沿岸の魚種交替. *JAFIC Technical Review No. 1*, 1-12

ミズダコ (*Enteroctopus dofleini*)



生態

- ① 寿命：不明（年齢形質未確定）。
- ② 成熟：雌 8.5 kg、雌 9.8 kg（津軽海峡）。
- ③ 産卵期：3～5月（津軽海峡）、5～7月（北海道）。
- ④ 分布：東北地方以北。
- ⑤ 生態：大型の寒冷性のタコ。漁獲される個体の多くは未成年体である。

主な漁業と漁期

周年沿岸小漁（カゴ漁）などにより漁獲されているが、6～7月に水揚げが多い。

資源動向と水準

震災後に漁獲量が減少傾向にある。2024年の水揚げ量は500トンであった。なお、水揚げデータには、本種に加えてヤナギダコ、アマダコ、クモダコが含まれていることに注意が必要である。

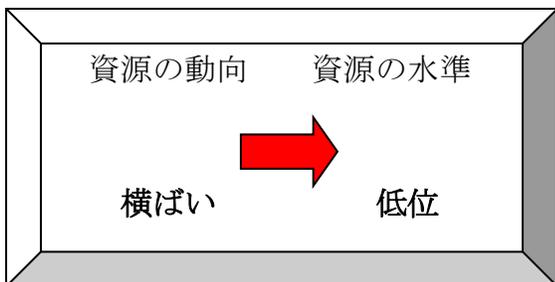
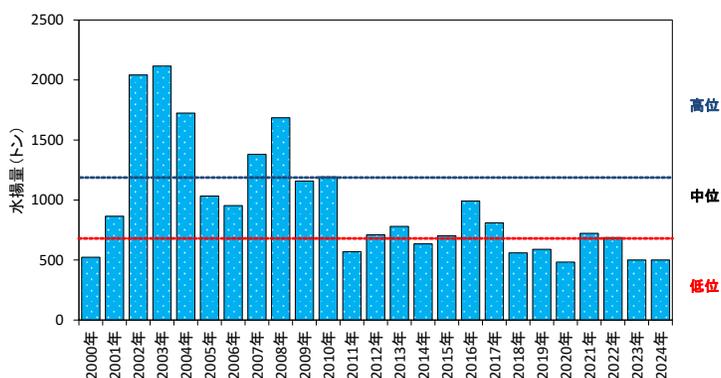


図1 宮城県におけるミズダコの漁獲量の推移。高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。

参考文献

- 1) 野呂恭成, 桜井泰憲 (2014) 津軽海峡周辺海域におけるミズダコの性成熟と生殖周期。水産増殖, 62 巻, 3 号, p. 279-287

ガザミ (*Evynnis japonica*)



生態

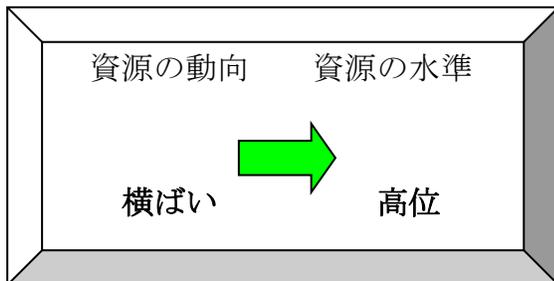
- ① 寿命：2～3 歳。
- ② 成熟：ガザミは雌雄共生体型第 12 令または第 13 令で成熟し、雌では次の脱皮で腹部の形が三角形から丸味を帯びた形に変化し(成熟脱皮)交尾する。
- ③ 産卵期：産卵期は抱卵個体の出現状況でみると 4～9 月。
- ④ 分布：青森県以南の日本沿岸各地、台湾、中国、朝鮮半島(日本の主な産地は東京湾、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海)。
- ⑤ 生態：巻貝、二枚貝、多毛類、小型甲殻類等の底生生物を捕食し、夜間餌を求めて砂泥域から泳ぎ出て、はさみ脚で餌を捕らえる。

主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網により漁獲される。

資源動向と水準

ガザミの水揚量は、2015 年に 500 トン以上を示し、その後 600～700 トン台で推移したが、2019 年以降は 300 トン前後の中位水準で推移していた。2024 年の水揚量は 270 トンであり、資源水準は高位、動向は増加と判断される。



トピックス

宮城県においては 1960 年以降の漁獲量は年間数トン程度であった。1978 年～1999 年には種苗放流が行われ、最大で年間 270 万匹の稚ガニが放流されたが、この期間にも漁獲量の顕著な増加は見られなかった。しかし、東日本大震災後の 2012 年頃から仙台湾における漁獲量が急増し、2015 年には宮城県の漁獲量が全国 1 位となった。

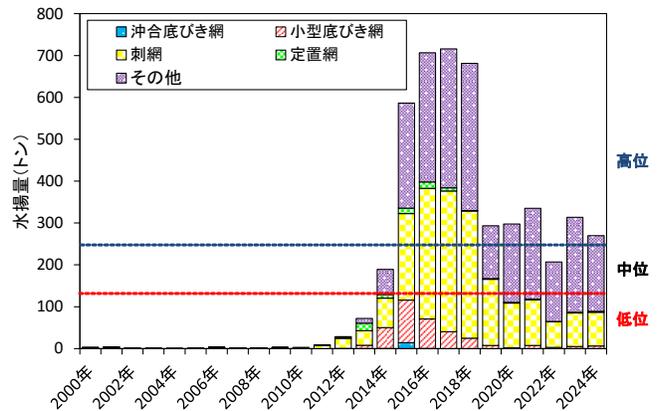


図 1 宮城県におけるガザミの水揚量の推移
※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 193-196.
- 2) 矢倉浅黄 (2021) 仙台湾におけるガザミの漁獲と生態について. 宮城水産研報, 21, 10-14.

アカガイ (*Microstomus achne*)



生態

- ①分布：内湾及び沿岸浅海域の泥域に生息する二枚貝で、仙台湾では水深 20～30 m のシルト帯に生息する。
- ②年齢・成長：殻長は 2 齢で 40 mm、4 齢で 59.6 mm、6 齢で 73.4 mm、10 齢で 90.0 mm と推定される。
- ③成熟・産卵：2 齢で一部が成熟するが、若齢貝では雄の割合が高く 6 齢で雌雄比が 1 となる。
- ④食性：無水管の濾過食性で、微細藻類や有機懸濁物を摂取する。

主な漁業と漁期

貝桁網により漁獲される。7、8 月を除き周年漁獲される。

資源動向と水準

2001 年以降の漁獲量の平均値を基準に求めた漁獲水準としては 2024 年は中位水準(83 トン)。

ただし、本種はまひ性貝毒が基準値を超えた場合、出荷自主規制措置がとられ、また、種として長期間毒成分を保持する。年によって漁期が著しく短いことがあり、必ずしも漁獲動向が資源動向を反映しているとは言えない。このことからまひ性貝毒により長期間出荷自主規制措置が図られた 2018、2020、2022 年の動向も考慮して横ばいと判断した。

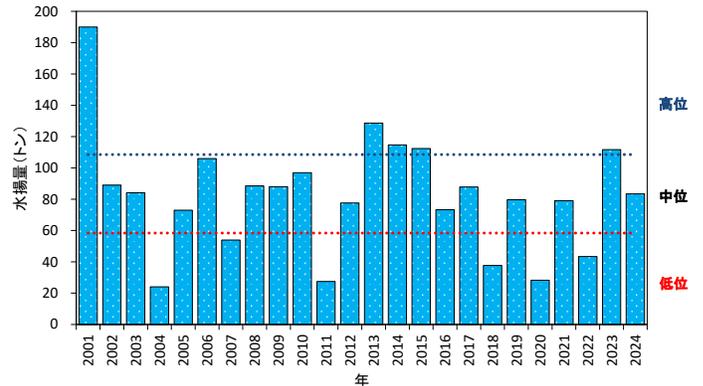
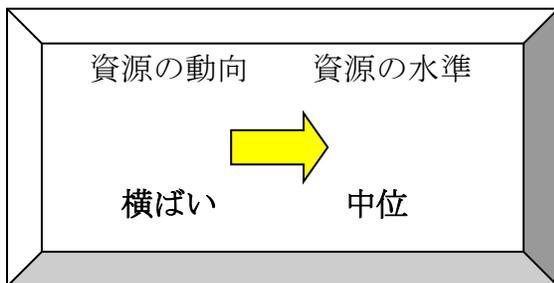


図1 宮城県におけるアカガイの漁獲状況

参考文献

- 1) 吉良哲郎(1972)原色日本貝類図鑑。保育社，東京。
- 2) 渡邊一仁，田邊徹，鈴木矩晃(2012)仙台湾アカガイの資源状況と管理手法の検討。宮城水産研報，12，13-21。
- 3) 佐々木良(1997)仙台湾におけるアカガイ加入初期過程に関する再検討。宮城水開セ研報，15，69-79。

タチウオ (*Trichiurus japonicus*)



生態

- ①寿命：8歳程度。
- ②成熟：1歳で40%、2歳で80%以上、3歳で100%が成熟する。
- ③産卵期：春と秋に分かれる。近年仙台湾では7月～10月に産卵がみられる。
- ④分布：北海道以南の本州沿岸から東シナ海、朝鮮半島西岸および黄海・渤海に分布し、日本各地の沿岸で広く分布する。近年西日本では減少しているが、静岡県以東では増加しており、海水温上昇によりタチウオの分布が北偏傾向にある。
- ⑤生態：肛門前長が200 mm以下の個体は小型甲殻類、中大型魚は小型魚類を補食する。成長に伴い魚食性が強くなる。共食いも見られる。

主な漁業と漁期

本県では定置網と小型底びき網による漁獲が多い。タチウオの来遊資源の増加に伴い、はえ縄等で狙う漁業者もいる。主漁期は夏秋期で沿岸の表面水温が20℃前後になると来遊し、10℃を下回ると常磐海域以南へ南下する。

資源動向と水準

タチウオの水揚量は、1999年に300トンを超えたが、2014年までは100トン未満の低位水準であった。2015年以降増加し、2018年以降は100トンを超え、年々右肩上がり得水揚量が増加していた。2022年以降減少したが、2024年は一転して増加し、過去最高の544トンとなった。

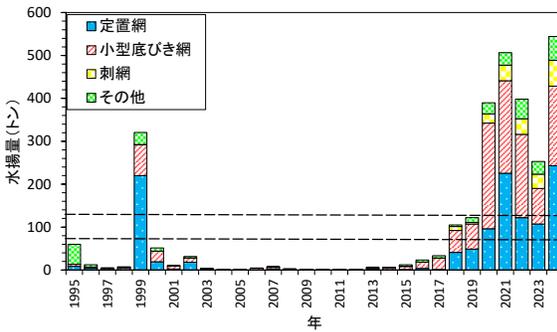
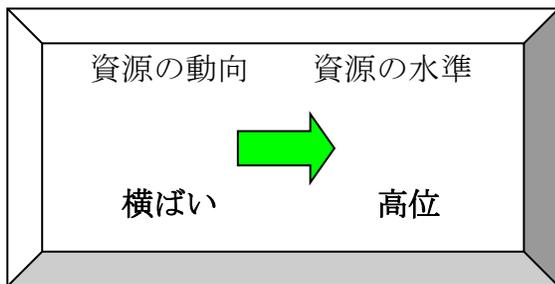
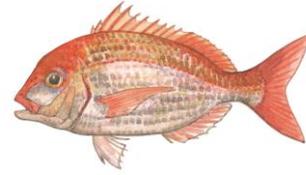


図1 宮城県におけるタチウオの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



参考文献

- 1) 井関智明・青沼佳方・五味伸太郎・増淵隆仁 (2024) 令和5 (2023) 年度タチウオ日本海・東シナ海系群の資源評価. 東京, 26 pp, https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_57.pdf.
- 2) 増田義男・片山知史 (2022) 仙台湾におけるタチウオの漁獲動向と生物特性. 黒潮の資源海洋研究, 23, 49-55.

チダイ (*Evynnis japonica*)

生態

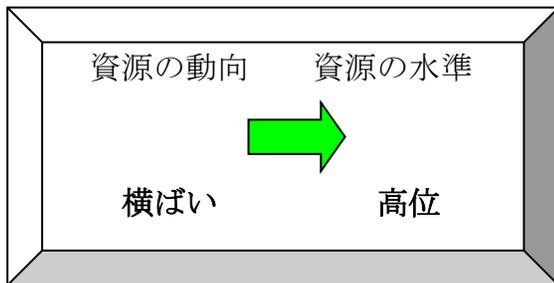
- ① 寿命：雌雄ともに最高 16 歳の記録がある。
- ② 成熟：2 歳になると産卵を開始し、産卵期に 2 歳魚は 1 回、3 歳魚以上は 3 回の産卵を行うと推定されている。
- ③ 産卵期：宮城県沿岸では 5～9 月。低緯度の海域ほど産卵期が早い。
- ④ 分布：北海道南部から沖縄までの沿岸各地、朝鮮南部、東シナ海に分布する。
- ⑤ 生態：未成魚期は端脚類、アミ類、エビジャコ、キシエビ、多毛類、魚類稚仔、クモヒトデなどを捕食し、成魚期では端脚類、エビ類、キセワタ類、イカ類、オキアミ、多毛類、クモヒトデなどを捕食する。

主な漁業と漁期

主に底曳網、定置網により漁獲される。

資源動向と水準

チダイの水揚量は、2000 年代前半は 10 トン以下の低位水準で推移していた。2016 年以降水揚量が増加し、2018 年以降は 174 トン～352 トンの高位水準で推移している。2024 年の水揚量は 252 トンである。



参考文献

- 1) 長岡生真 (2024) 宮城県沿岸域におけるチダイの生物学的特性. 黒潮の資源海洋研究, 26, (印刷中).
- 2) Havimana, L., J. Ohtomi, Y. Masuda and M. Vazquez-Archdale (2020) Age and growth of crimson sea bream *Evynnis tumifrons* off the southwestern coast of Kyushu, Japan. *Fish. Sci.*, 86, 319-327.
- 3) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成 18 年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 67-72.
- 4) 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次, 2007: 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野, 1262 p.

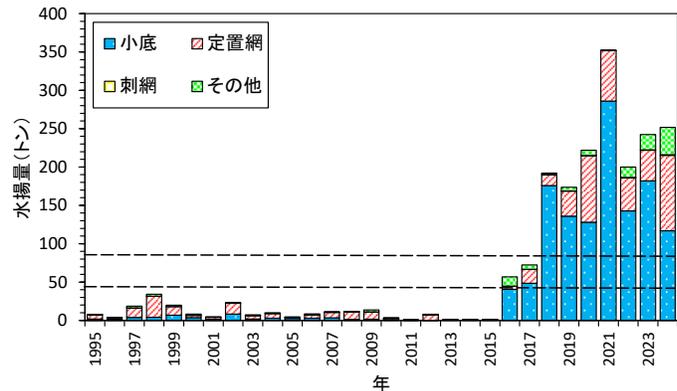
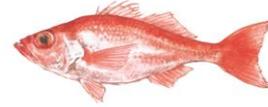


図1 宮城県におけるチダイの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界
中位と低位の境界を表す。

アカムツ (*Doederleinia berycoides*)

生態

- ①寿命：雄では5歳、雌では10歳とされている。宮城県のアカムツは雄が10歳、雌が15歳。
- ②成熟：雄では3歳で全長15cm前後、雌では3～4歳で全長20cm前後。
- ③産卵期：日本海では7月～9月。宮城県では9月～10月。
- ④分布：日本海・東シナ海は青森県～九州南岸、太平洋側は北海道～九州南岸。近年福島～宮城県海域で増加傾向にある。季節的には夏季に浅い水深帯に移動する。
- ⑤生態：仔稚魚期はカイアシ類、幼魚はオキアミやエビ類などの甲殻類、成魚は魚類やエビ類を捕食する。

主な漁業と漁期

主漁期は夏～秋季。以前は底びき網による漁獲が大半を占めていたが、近年は刺網による漁獲が多くを占めるようになった。刺し網では大型のアカムツを狙い操業し、高値で取引されている。

資源動向と水準

アカムツの水揚量は、1997年に8.7トンを超えたが、1999年～2013年までは1トン未満の低位水準で推移した（図1）。2012年に卓越年級群が発生し、2015年に漁獲対象となって以降は高位水準で推移して増加傾向にある。2024年は32.9トンで過去最高を更新した。

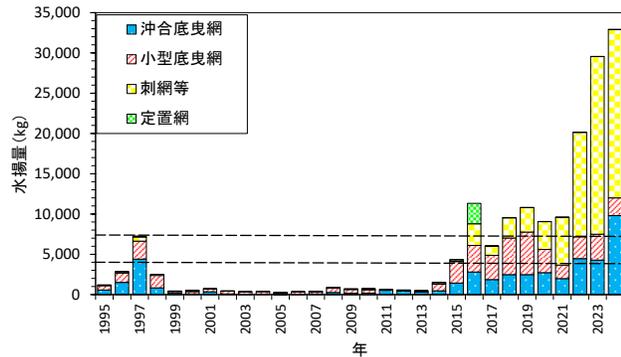
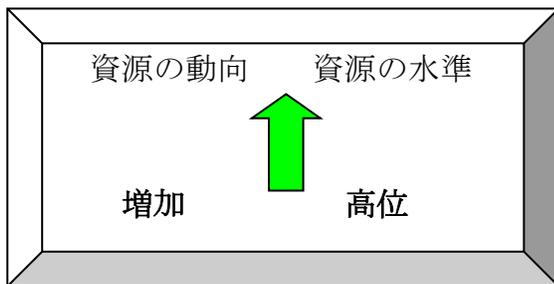


図1 宮城県におけるアカムツの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか（2021）アカムツ日本海系群（青森～山口）. 令和2（2020）年度調査報告書. 東京, 18pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2020/trends/202002.pdf>.
- 2) 増田義男（2023）宮城県におけるアカムツの漁獲実態. 東北底魚研究43, 47－50.
- 3) 増田義男・時岡 駿・櫻井慎大（2024）宮城県沿岸域におけるアカムツの年齢と成長. 東北底魚研究, 44, 21－28.

トラフグ (*Takifugu rubripes*)



生態

- ①寿命：10年以上。
- ②成熟：雄では2歳、雌では3歳。
- ③産卵期：産卵期は4～5月。本県で産卵しているかについては不明。
- ④分布：北海道～九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海。近年東京湾周辺海域で急増し、2021年の秋～冬季には福島～宮城県海域で漁獲が急増した。
- ⑤生態：仔魚期は動物プランクトン、稚魚期は端脚類、十脚類、多毛類、昆虫類を捕食する。未成魚期はイワシ類、その他幼魚、甲殻類、成魚期は甲殻類や魚類を捕食する。

主な漁業と漁期

ふぐはえ縄、小型底びき網などによって漁獲される。本県では定置網、小型底びき網、刺網等によって漁獲される。2020年までは4～6月がトラフグ漁期であったが、2021年からは県南部海域で10月～12月まではえ縄や刺網による狙い操業が行われて漁獲量が急増している。

資源動向と水準

トラフグの水揚量は、2009年までは3トン未満の低位～中位で推移した。震災のあった2011年を除く2010年～2014年までは中位～高位で推移し、2015年～2018年まではやや減少して中位水準となった。2019年以降は増加傾向となり、2024年は38トンで過去最高となった。

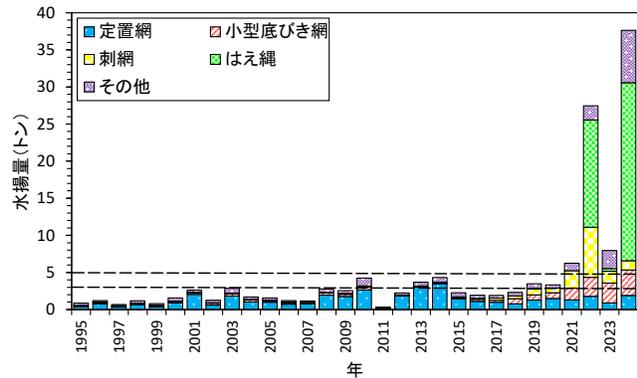


図1 宮城県におけるトラフグの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



参考文献

1) 真鍋明弘・平井慈恵・片町太輔・澤山周平・青木一弘 (2024) 令和5 (2023) 年度トラフグ伊勢・三河湾系群の資源評価.東京, 92pp,
https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_74.pdf.

ケンサキイカ (*Uroteuthis edulis*)

生態

- ①寿命：1年。
- ②成熟：月齢約5ヶ月程度から成熟個体が出現し、8ヶ月でほぼ半数の雌が成熟する。
- ③産卵期：春～秋の長期間。本県では夏～秋に産卵する。
- ④分布：青森県以南から東南アジアおよびオーストラリア北部に分布する。宮城県では2017年以降、夏秋季にケンサキイカが多獲されるようになり、沖合底びき網や小型底びき網をはじめとする沿岸・沖合漁業の重要魚種になりつつある。
- ⑤生態：小型の魚類、軟体類、甲殻類を捕食する。

主な漁業と漁期

本県では沖合底びき網、小型底びき網、定置網等によって漁獲される。漁期は7月～11月。2023年以降漁獲時期が早まっている。海洋熱波による異常な高水温となった2023年と2024年は30cmを超える大型雄が漁獲されるようになった。

資源動向と水準

ケンサキイカの水揚量は、2016年までは70トン未満の低位～中位で推移したが、2017年に急増し、以降高位で推移している。2022年は親潮系冷水が強かったことが影響し、1トンにまで激減したが、2023年以降再び急増し、2024年は353トンで過去最高となった。

参考文献

- 1) 佐々千由紀・依田真理・酒井猛・黒田啓行 (2024) 令和5 (2023) 年度ケンサキイカ日本海・東シナ海系群の資源評価.東京, 28 pp, https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_79.pdf
- 2) 増田義男・時岡駿 (2021) 宮城県沿岸で漁獲されるケンサキイカの生物特性. 宮城水産研報, 21, 23-30.
- 3) 増田義男・時岡駿・柳本卓 (2024) 2023年に宮城県沿岸域へ来遊したケンサキイカの特徴. イカ類資源評価協議会報告 (令和5年度), 4-7.
- 4) 増田義男・時岡駿 (2025) 2023～2024年の海洋熱波状況下に宮城県沿岸域で漁獲されたケンサキイカの日齢, 成長および成熟. 黒潮の資源海洋研究, 26, (印刷中)

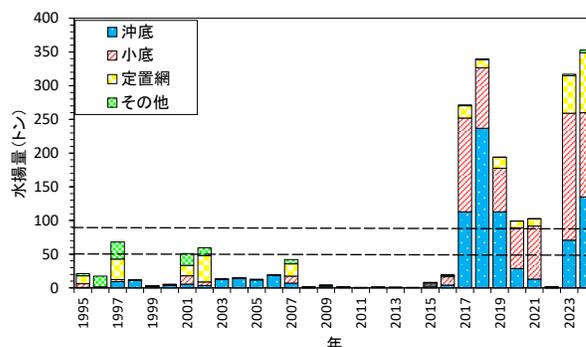


図1 宮城県におけるケンサキイカの水揚量の推移

※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



2024年宮城県主要魚種資源水準動向一覧

No.	魚種	動向	水準	備考	No.	魚種	動向	水準	備考
1	クロマグロ	↑	低位	暖水種	26	イカナゴ	↓	低位	冷水種
2	カツオ	→	低位	暖水種	27	ツノナシオキアミ	↓	低位	冷水種
3	メバチ	→	低位		28	サヨリ	↑	高位	
4	キハダ	↓	低位	暖水種	29	スズキ	↑	高位	
5	ビンナガ	→	低位	暖水種	30	サワラ	↑	中位	暖水種
6	メカジキ	→	低位	暖水種	31	アイナメ	→	低位	
7	サンマ	↑	低位	冷水種	32	マアナゴ	→	中位	
8	サケ	→	低位	冷水種	33	ケムシカジカ	→	低位	冷水種
9	マイワシ	→	中位		34	マダイ	↑	高位	暖水種
10	マサバ	↓	中位		35	カナガシラ	↑	中位	
11	ゴマサバ	→	低位	暖水種	36	ウマヅラハギ	→	中位	
12	マアジ	↑	中位	暖水種	37	ヒラメ	→	中位	
13	スケトウダラ	↓	低位	冷水種	38	マコガレイ	↓	低位	
14	マダラ	→	低位	冷水種	39	マガレイ	↓	低位	冷水種
15	サメガレイ	→	低位		40	ホシガレイ	→	中位	
16	ババガレイ	→	中位	冷水種	41	ジンドウイカ	↓	低位	
17	キチジ	→	高位		42	マダコ	↑	高位	暖水種
18	キアンコウ	↑	高位		43	ミズダコ	→	低位	冷水種
19	イラコアナゴ	→	低位		44	ガザミ	→	高位	暖水種
20	イトヒキダラ	→	低位		45	アカガイ	→	中位	
21	ユメカサゴ	→	高位		46	タチウオ	→	高位	暖水種
22	ヤリイカ	→	高位		47	チダイ	→	高位	暖水種
23	スルメイカ	→	低位		48	アカムツ	↑	高位	暖水種
24	カタクチイワシ	↑	低位	暖水種	49	トラフグ	↑	高位	
25	ブリ	→	低位	暖水種	50	ケンサキイカ	↑	高位	暖水種

※50種のうち、高位水準は14魚種、中位水準が11魚種、低位水準が25魚種となっている。

※冷水種10種のうち9種が低位水準となっている。

※暖水種17種のうち9種が中位～高位水準となっている。また、暖水種のうち、広域性の魚種は低位の割合が多い。

主要魚種の水揚量の推移

単位：トン ※サケの単位：千尾

	魚種	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1	クロマグロ	7,441	2,821	3,270	694	2,733	844	1,814	569	463	1,050	310	356	344
2	カツオ	61,783	68,227	55,324	77,584	49,605	100,188	69,951	67,934	73,465	32,240	67,497	18,546	34,877
3	メバチ	5,036	4,631	6,347	5,755	5,957	3,157	4,437	5,006	4,000	3,757	4,112	3,270	3,408
4	キハダ	3,443	1,911	2,362	2,861	1,347	1,058	2,107	1,453	1,616	1,246	1,626	1,281	2,710
5	ビンナガ	9,810	8,126	13,663	11,021	7,735	7,670	6,826	12,470	14,986	11,351	7,100	3,125	9,946
6	メカジキ	5,232	4,409	4,449	4,242	4,439	4,198	4,890	4,361	3,652	3,656	2,945	1,214	2,132
7	サンマ	53,349	79,857	45,122	71,494	51,643	59,777	63,765	75,922	98,555	76,618	48,734	13,463	31,770
8	サケ	1,357	1,871	2,301	2,361	1,881	2,198	2,356	2,569	3,444	3,220	1,849	1,482	1,456
9	マイワシ	13,020	30,029	11,316	8,610	2,219	1,753	5,575	6,502	1,958	431	3,413	1,325	1,868
10	マサバ	18,667	27,831	9,181	15,629	31,309	48,362	86,691	34,938	43,052	47,777	40,989	5,811	10,126
11	ゴマサバ													
12	マアジ	794	825	580	638	356	373	304	962	707	628	417	265	1,009
13	スケトウダラ	7,144	6,523	4,767	5,275	11,674	3,863	5,231	4,129	6,797	4,571	5,992	4,322	5,706
14	マダラ	14,548	13,729	6,094	10,382	13,599	26,210	17,136	21,871	10,182	16,501	13,505	3,992	5,156
15	サメガレイ	152	120	223	228	257	300	202	127	215	237	176	84	153
16	ババガレイ	125	150	139	170	116	89	131	99	113	79	92	84	153
17	キチジ	207	177	219	391	313	376	488	341	377	375	326	229	357
18	キアンコウ	220	307	267	256	292	156	341	168	164	132	170	121	132
19	イラコアナゴ	677	643	783	782	1,480	2,337	3,247	4,037	2,944	2,281	2,081	1,809	2,411
20	イトヒキダラ	20,965	15,077	9,862	11,997	7,971	8,724	14,766	12,404	9,172	7,948	6,721	705	1,025
21	ユメカサゴ	11	10	8	8	10	5	4	4	5	30	55	18	19
22	ヤリイカ	624	1,648	855	550	421	233	558	886	1,410	313	784	358	483
23	スルメイカ	14,203	13,684	20,470	11,306	12,491	12,128	9,860	19,807	12,481	18,971	14,820	8,422	4,670
24	カタクチイワシ	5,134	11,442	4,849	17,481	16,200	13,034	13,657	5,592	9,770	10,258	16,120	4,763	4,644
25	ブリ	5,461	3,365	596	425	338	1,448	1,497	1,354	1,526	2,477	3,957	1,987	3,442
26	イカナゴ	9,724	10,672	2,659	6,656	6,906	8,697	5,335	1,786	9,258	2,327	3,909	167	479
27	ツノナシオキアミ	29,158	22,510	20,586	22,352	20,942	20,123	18,938	18,411	19,035	14,645	17,693		7,170
28	サヨリ	10	10	8	11	2	6	6	10	11	10	8	6	6
29	スズキ	86	97	110	104	99	103	114	79	102	94	138	49	32
30	サワラ	66	73	60	87	40	262	139	534	336	118	375	23	53
31	アイナメ	152	135	151	130	126	90	101	93	79	98	80	31	54
32	マアナゴ	479	417	363	372	474	317	441	553	421	369	325	170	392
33	ケムシカジカ	38	35	101	48	43	50	69	65	41	32	46	23	32
34	マダイ	137	96	155	118	119	75	139	80	43	124	122	118	182
35	カナガシラ	18	32	22	13	10	11	49	18	37	44	41	12	104
36	ウマヅラハギ	147	174	169	53	61	88	227	109	45	54	161	12	17
37	ヒラメ	111	115	117	117	95	99	196	191	192	232	223	179	197
38	マコガレイ	319	240	259	212	217	152	224	238	229	247	233	116	184
39	マガレイ	383	194	216	263	465	381	537	570	528	489	401	232	557
40	ホシガレイ	5	6	4	3	2	2	4	4	5	6	8	2	4
41	ジンドウイカ	449	414	510	282	149	331	419	465	442	431	426	450	167
42	マダコ	211	68	99	31	69	38	21	191	103	89	37	43	9
43	ミズダコ	522	865	2,043	2,116	1,724	1,033	953	1,380	1,685	1,158	1,194	568	711
44	ガザミ	3	4	1	0	0	0	3	2	2	3	2	9	28
45	アカガイ		190	89	84	24	73	106	54	89	88	97	27	78
46	タチウオ	51	10	32	4	1	1	4	7	2	1	1	1	2
47	チダイ	8	5	23	7	10	4	9	12	12	14	3	1	8
48	アカムツ	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
49	トラフグ	1	2	1	2	1	1	1	1	2	2	3	0	2
50	ケンサキイカ	5	51	60	13	15	13	19	42	1	4	2	1	2

単位：トン ※サケの単位：千尾

	魚種	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1	クロマグロ	485	418	964	1,245	1,787	1,528	1,394	1,685	1,747	1,782	1,912	2,028
2	カツオ	37,871	35,596	40,776	24,203	29,016	24,723	28,550	19,962	45,882	11,883	29,920	44,872
3	メバチ	2,827	3,748	2,555	2,421	2,035	2,627	2,344	2,565	2,469	1,644	3,120	2,124
4	キハダ	1,316	1,290	1,854	2,962	1,336	1,799	1,453	426	2,134	432	1,284	1,673
5	ビンナガ	8,984	7,905	13,784	9,514	6,433	11,466	3,206	17,696	7,261	1,328	12,481	5,336
6	メカジキ	2,375	2,395	2,583	2,978	2,700	3,096	2,394	3,088	2,284	2,119	2,349	2,226
7	サンマ	23,791	51,368	21,448	27,370	19,244	32,851	9,951	9,631	3,465	3,565	4,926	7,427
8	サケ	2,403	2,083	1,620	1,002	951	1,016	275	188	37	47	10	9
9	マイワシ	12,701	9,648	13,770	19,727	42,947	47,356	45,317	69,951	68,078	63,219	66,809	51,021
10	マサバ	25,500	45,383	53,505	69,190	61,755	64,908	64,922	55,034	51,825	48,400	32,653	26,566
11	ゴマサバ												
12	マアジ	1,344	1,112	985	727	581	762	896	502	450	617	673	1,416
13	スケトウダラ	5,198	5,428	4,942	2,196	2,151	1,767	1,873	1,143	2,377	6,184	1,319	75
14	マダラ	13,289	14,413	12,446	6,793	3,644	2,833	3,145	2,611	3,267	2,767	1,969	930
15	サメガレイ	100	73	89	146	153	162	118	135	56	126	51	70
16	ハバガレイ	187	412	234	206	148	178	247	138	164	105	184	132
17	キチジ	134	96	114	115	120	167	154	147	117	351	104	96
18	キアンコウ	194	429	251	373	491	295	353	338	365	420	438	473
19	イラコアナゴ	943	633	1,159	848	1,126	1,056	502	527	376	821	850	383
20	イトヒキダラ	401	337	952	1,124	809	1,204	771	295	117	610	180	88
21	ユメカサゴ	11	16	11	11	21	48	63	56	65	48	36	39
22	ヤリイカ	366	1,333	461	1,204	1,632	1,771	1,757	1,698	1,551	1,349	1,936	1,369
23	スルメイカ	6,469	5,131	4,413	2,786	3,065	1,925	1,223	2,998	1,219	940	1,574	2,480
24	カタクチイワシ	6,825	2,831	1,433	959	827	343	647	1,138	1,156	1,224	1,527	1,621
25	ブリ	3,603	3,107	5,177	3,886	6,472	2,723	3,577	3,889	1,847	1,992	1,476	2,084
26	イカナゴ	2,823	3,485	3,546	2,201	2,899	972	71	0	0	35	0	0
27	ツノナシキアミ	13,032	10,023	14,598	8,055	7,408	2,249	9,816	460	1,489	5,720	5,481	0
28	サヨリ	10	12	10	8	3	5	17	20	23	22	30	13
29	スズキ	0	0	29	176	164	202	214	207	228	181	258	609
30	サワラ	117	295	164	311	175	109	258	190	131	71	88	266
31	アイナメ	66	94	87	83	84	79	66	51	41	45	47	34
32	マアナゴ	531	498	448	381	460	425	325	235	205	258	246	333
33	ケムシカジカ	30	26	21	14	13	11	8	5	3	2	2	2
34	マダイ	413	246	251	172	121	199	126	151	248	188	288	583
35	カナガシラ	130	149	233	367	386	284	215	166	126	170	202	246
36	ウマヅラハギ	77	69	29	37	83	91	100	131	125	99	101	95
37	ヒラメ	961	1,509	1,671	1,034	1,216	748	778	666	545	662	578	714
38	マコガレイ	208	240	439	375	352	322	270	182	126	126	89	56
39	マガレイ	832	866	906	789	1,053	567	287	110	79	57	48	31
40	ホシガレイ	6	11	15	14	20	18	22	17	9	7	8	9
41	ジンドウイカ	399	532	484	489	385	300	223	198	240	224	218	67
42	マダコ	248	46	109	226	1,169	471	473	667	409	277	858	659
43	ミスダコ	780	634	702	991	810	559	588	483	722	687	500	500
44	ガザミ	72	189	586	707	716	681	293	298	335	207	314	270
45	アカガイ	129	115	112	73	88	38	80	28	79	43	112	83
46	タチウオ	7	6	12	23	33	105	122	390	506	398	253	544
47	チダイ	1	1	1	57	72	192	174	222	352	200	242	252
48	アカムツ	0	2	4	11	6	10	11	9	10	20	30	33
49	トラフグ	3	4	2	2	2	2	3	3	5	26	6	38
50	ケンサキイカ	1	1	8	19	271	339	194	99	103	1	317	353